

湖心

松岡隆子

白鳥の助走一氣に水蹴つて
白鳥の湖心にあれば孤高なる
白鳥や遠きはものの美しく
人声に寄れば白鳥汚るるよ
白鳥の眠れる闇の濡れいろに
風花や湖畔は人を佇しむる
みちのくの星空ふかき氷柱かな

何か遠し雪降る街の灯され
雪を来て茶房昭和の匂ひせり
雪はしづかに餚色の蓄音機
瓦斯燈の灯りもろとも波凍つる
旅果ての雪の橋とて振りかへる

先月の21日、俳人協会岩手県支部の新年句会が盛岡で開催された。派遣講師としての大役が果たせたかどうか心許ない限りだが、何よりも参加者の方々に心温かく迎えていただき心が安らいだ。拙い講演をご清聴下さった皆様には感謝のほかない。句会終了後市内を案内してもらい、初めての盛岡が一度で好きになった。白鳥の飛来地として知られる高松の池の白鳥は見ていて飽きなかった。盛岡城址公園や川沿いの街並み、大正時代の建築美を誇る岩手銀行などの景観も心に残った。立ち寄ったレトロなカフェは昭和の匂がした。啄木や賢治ゆかりの地である盛岡は今も文化の薫り高い街であると知った。